

県立高校未来創造ビジョン意見交換会（東学区）における主な意見

テーマ①県立高校が取り組む教育の重点

全ての生徒の可能性を引き出す教育

- サテライトも一つの方法ではあると思うが、自分の子供に聞くと先生との対話ができる対面授業が一番いいとのことだった。大学受験は全国規模の競争であるため、選択科目の充実は重要である。公立高校の魅力として、全国の多様な教育環境で学ぶ生徒と対等に競える学力を身に付けられる教育を期待したい。
- 市内の県立高校の探究学習発表会を拝見したことがあり、中学生にも知ってもらえるような機会があると良いと感じた。高校生の姿を見て、中学生も高校のイメージを持つきっかけになると思う。市としても、中高の連携の展開を打ち出しているところである。
- 自分は就職を希望しており、実習の時間を増やしてほしいと思っている。一方で大学進学を希望している生徒もいる。ビジョン概要にある「多様化・複雑化する生徒の実態の学びのニーズに対応した教育の充実」について、就職希望・進学希望それぞれに応じたコースがあれば、将来の見通しが立てやすくなり、選択しやすくなるのではないかなと思う。
- 生徒数は減少しているが、特別支援学級は年々増加している。高校では特別支援学級がないため、地元で支援が受けられるような高校があるとありがたい。

地域を支える人づくり

- 学校ごとに進学先や就職先について、学校枠、地域枠のような制度はできないものか。学校の魅力の1つになるし、地域における学校の役割が明確になって保護者の方からも地元の高校進学を勧めやすくなる部分もあり、地域人材の定着につながるかもしれない。
- 少子化で卒業する人が減るということは、働く担い手が減ることにつながる。県内に留まって就職する生徒や大学の学生も減っていると感じている。
- 地域をフィールドにした学びに力を入れている。地元の観光や地域との連携を密にしていけることが求められており、今後も学校設定科目をはじめとした取組を継続していく。
- 地域に根差した教育ニーズは県立高校の強みだ。高校生が地域にどんどん入って活動し、その様子が地域の方や小中学生の目に留まることで次第に魅力が伝わっていく。高校生の発信は大きな魅力になると考えている。

新しい時代への対応

- 今回のビジョンは、具体的なものというよりは掲げる目標のようなものと捉えている。「新しい時代への対応」としては、デジタルスキルやリテラシーを身に付けた人材が育ってほしい。また個々の得意な部分を伸ばすような教育をしていただけると、社会に出てから柔軟に対応できる人材になると思う。そのために、文部科学省で定めた基本的な部分があるものの、その運用が各学校で柔軟にできるようにならないものか。

魅力ある学校づくり

- 高校のPRについて、私立高校は以前から、近年は県立高校も努めているが、学校の魅力は華々しいものだけではない。忙しい中頑張っている教職員の人柄や授業の内容など、個々の魅力の結集が全体の魅力につながっていくと感じる。
- 自分が通う高校の魅力の1つとしては、地域交流が盛んである。全校生徒が年間1回以上ボランティア活動への参加を目指している。また、県内各地の中学校から進学してくるため、生徒同士の出会いやつながりが生まれることも魅力である。
- 高校を選んだ理由は、部活動が魅力的だったこと。中学校3年生の時を思い出すと、他の人

も勉強や部活動など色々な観点で考えていた。綺麗な校舎や制服がかわいいという理由で選ぶ中学生も意外と多かったので、中学生にとって魅力の感じ方はそれぞれだと感じた。

- いわゆる高校無償化によって金銭面ではどの学校もフラットに選べるため、学校が特色や魅力をより発信して選んでもらえるようにしなければならない。ある程度の規模の学校や都市部の学校に入学者が集まる傾向が見られる。
- 校舎は教員が手出しできないところであるため、学校生活を送る上で校舎が魅力の1つとしてPRできるようなものになるよう検討いただけるとありがたい。またデジタル機器などハード面の対応やメンテナンスの予算も必要である。さらに、教職員を確保して育成するためにも支援をお願いしたい。
- 県立高校では3年生のみならず1、2年生に対してもオープンスクールを開いている。まだ自分事になっていない生徒もいるが、中学校の早い段階から将来のことを考えていけるような魅力発信をしていただけるとありがたい。
- 最近の生徒は公立私立という枠組みではなく、フラットに学校の魅力で見ている。他地区でも、地元に近い高校よりも電車に乗って都市部に行きたいと考える生徒がいるようである。
- 魅力ある県立高校について、県立高校の校長は中学校を訪問して直接、熱心な説明をいただいている。一方で中学生は、将来の進路を考えた場合にどの高校に行くのが良いのかを考えており、ニーズに即したPRができていないのが求めている。
- 県立高校の今後の在りようはみんなが心配している。行政や高校の校長だけでなく、先生方も危機感を持っていくと、高校の魅力もまた変わってくるかもしれない。
- 平成30年度の私立高校授業料無償化の頃から、管内の中学校から私立高校への進学者割合は増えている。西村山地区の県立高校も定員割れが続いている。今年度は県立高校の入選制度改革があったが、公立高校の入学確保という成果にはつながらなかったと感じた。県立高校の魅力づくりについて、学校にいる教員や生徒も誇りを持って取り組み地域に向けて発信していくような、意識改革についての記載も必要ではないか。
- 魅力づくりの方向性は賛成であるが、魅力が中学生や保護者に届いていない状況を改善する必要がある。
- 公立の強みの1つとして、西村山地区で地域に根差して学びたい生徒や、通学にお金をかけず地元の高校で活躍してもらいたい保護者などのニーズに応えられる点がある。また特別支援教育についても研修の機会や特別支援学校との連携もあり、個々の生徒への関わり方について教員のスキルが向上しており「面倒見がいい学校」という評価につながると感じる。
- 保護者視点として、高校への進学が早期に決まることには安心感がある。だからこそ、中学生がこの学校へ進学したいという思いをしっかりと持てることが最も重要であり、学校の特色を中学生にも十分理解してもらえるような取組が必要である。
- 新しい校舎、新しい設備で学んでいることに感謝している。
- 部活動について、中学校・高校の6年間を地域で一貫して取り組む方法が考えられる。高校の顧問や外部コーチから中学生も指導を受けられると、その高校への憧れにつながる。また中学校・高校と地域の運動施設を結ぶシャトルバスを自治体が運行して安全性や保護者負担の軽減を図ることも必要ではないか。
- 特色の一案として、地産地消のねらいにもつなげた給食はいかがか。
- 以前と比べて高校が選ばれる立場となっている状況の中、一層高校の魅力発信の必要性を感じている。進路先だけでなくカリキュラムや学びの内容もわかりやすく発信することが求められるが、すべての学校で突出した特徴を出すのは難しい面もあるだろう。

テーマ②県立高校の在り方に関する基本的な方向性

入学定員の設定、学級数の取扱い

- 人口減少を考えると、県立高校のみを切り出して入学定員を考えることは難しいのではない

か。申し合わせの公私定員比率7：3から、実際の入学者は5：5に近づく傾向にある。私立高校の自由度や、バスによる送迎などの優位性を度外視して県立高校だけのプランを設定しても現実的ではないと感じる。もっと現実的に即して進めるべきである。

- ある程度の規模の学校では、様々な個性の生徒がおり活力がある。そのような規模の学校も必要である。
- 15年後の中学校卒業者数予測を見ると、定員については、公私問わず高校全体を俯瞰した検討の場が必要ではないか。
- 子供の入学式に参加して生徒数が減っていることを実感した。また学級規模が小さくなると教員数や開設科目数にも影響があるという説明を伺って、色々な影響があることがわかった。

市町村に唯一所在する1学年当たり1学級の県立高校の取扱い

- 小規模校の一定の基準での廃止については、明確に反対したい。

課程・学科の配置、学校・学科の特色化に向けた方向性

- 伝統校と呼ばれる高校も定員割れが出ている。ビジョンでは進学指導を充実できる学校を8地区全てに設置としているが、もっと少なくなるのではないかと懸念している。
- 小規模校にも求められる役割がある。教員が生徒全員のことを知っていることや、心理的な距離が近いことを理由に通いたいと考える生徒もいる。
- 現在はマンパワー不足を感じているが、10年後、15年後の人口減を補うためにも、遠隔授業には期待している。現在も一部の授業で実施しており、最初は戸惑いながらも生徒はすぐに慣れ、対面と遜色のない授業になっている。高校同士が遠隔でつながることも公立の強みになるのではないかと。
- 通信制高校の例を見て、中学生には学びの自由度が魅力に映るのではないかと考えた。各高校の枠組みの中で、所属する学科の内容だけでなく、他分野も学べるような制度ができると良い。さらに、自分の学校にはない分野も、遠隔で他の県立高校の授業を受けられる制度も考えられる。

県立高校の配置に関する各地区の方向性

- 東学区の生徒は公私とも高校の選択肢が多く恵まれていると思う一方、学校側で生徒の取り合いをしているような状況は好ましくない。生徒たちは高校に入ることだけを目標にするのではなく、授業や将来の職業を見据えて高校選びをしてほしい。
- 生徒が多様化し、ニーズをどのように実現していくか、授業や進路指導に取り組んでいる。東学区は学校が多いため、生徒が自分の志望に沿った選択がやりやすく恵まれていると感じる。
- もし東南村山地区の学級数がそのままで西村山地区だけ学級数が減ることになれば、地区外への流出が加速する恐れがある。ビジョンにある通り、東学区全体でバランスを取った検討をお願いしたい。

テーマ③その他

ビジョン全体について

- 目下の県立高校の課題と、ビジョンの内容に差がありすぎて、何かに絞って意見をお話することが難しい。

高校入選について

- 高校授業料無償化の影響もあると思うが、県立高校に挑戦して不合格なら私立高校に進学するような状況に拍車がかかっていると感じる。早く進路を決めたいという考えや、受検のしく

みも関係していると思う。

- 高校入選が早まり、2月で合格や内定が出ると、その後高校入学までの学力の低下が気にかかる。また、他県のように、倍率が出た後にもう一度志願を変更できる制度はできないものか。
- 後期（一般）選抜で、山形中央高校普通科が定員割れしたことにショックを受けた。公私とも以前と比べて入選を含め様々なことが早めになっており、高校の改革にスピード感を持って対応していかないといけないと感じた。
- 県立高校の入選制度改革については研究が必要だと考え、昨年度は谷地高校の校長や県の出前講座で、生徒や保護者、教員に説明を行っていただき、適切な進路が選択できるよう取り組んだ。結果的に、本校では前期（特色）選抜によって公立高校への進学者割合が増加した。保護者にとっては早期に進路が決定されることが選択の1つの要因になっているようだ。
- 前期（特色）選抜の要件に英語検定が課されている高校もあった。現在は全体で受検するようなことはなくなっているため、町の教育委員会に依頼して受検機会を増やし、生徒の機会の格差が生じないようにした。

その他

- 中学生や、私立に進学した高校生などにも話を聞いてはいかがか。